

全国漢文教育学会 9月研究発表会

「前野直彬著『漢文入門』書評シンポジウム」

前野直彬著『漢文入門』の魅力と読みどころ

～高等学校の現場から～

筑波大学附属高等学校 畑 綾乃



<漢文素材と学び>

- 扱う素材自体が時空を超えたもの
- ストーリー性、論理性の高さ
- 洗練された表現、構成
- 日本文化への受容



- 古典に親しむ
- 自己・実社会・実生活に結びつける
- 論理性を活用する
- 日本の言語文化との繋がりを知る
- 語彙力を高める

→漢文“訓読”を学ぶ意義は？

<漢文素材と学び>

漢文“訓読”を学ぶ意義は？

→ “豊かな「ことばの力」の育成”

「言語文化」や「古典探究」の目標や
指導事項と直結するものがある

◇言語文化

1 目標

- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯
わたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の
言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通
して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 内容〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身につけることができるよう指導する。

ウ：我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身につけることができるよう指導する。

エ：時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化についての理解を深め、古典の言葉と現代の言葉の繋がりについて理解すること。

◇古典探究

1 目標

- (3) 言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯わたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

2 内容〔知識及び技能〕

- (1) 言葉の特徴や使い方に関する次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア：古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増やすことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。

(2) 我が国の言語文化に関する次の事項を身につけることができるよう指導する。

ア：古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国などの外国の文化との関係について理解を深めること。

ウ：時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解を深めること。

2 内容〔思考力、判断力、表現力〕

A 読むこと

(2) (1) に示す事項については、例えば、次のような言語活動を通して指導するものとする。

力：古典の言葉を現代の言葉と比較し、その変遷について社会的背景と関連付けながら古典などを読み、わかったことや考えたことを短い論文などにまとめる活動。

キ：往来物や漢文の名句・名言などを読み、社会生活に役立つ知識の文例を集め、それらの現代における意義や価値などについて随筆などにまとめる活動。

漢文学習における「ことばの力」の育成

※日本の文化・言語文化が中国と関係が深いことを前提として

文学的文章・詩歌
を読み解く力を身
につける

古文・漢文の
語句の意味や
文法を知る

現代の社会・自分
を対象化する契機
を得る

古代の文章にア
プローチできる
力・態度を身に
つける

古代中国の
言語文化を
楽しむ

いにしえの優
れた表現に親
しむ

現代の言葉
・字につい
て知る

日本文化と中国文
化の関係について
知る・考える

論理的思考を
身につける

古代の人々の
ものの見方や
考え方を知る

教養を身
につける

古代の社会
を読み解く

言葉の感
性を磨く

日本の言語文
化の発展経緯
を知る

古代の言語
文化につい
て知る

前野直彬著『漢文入門』の魅力と読みどころ

(1) 即時に役立つ内容

◇「訓読」に関する生徒の疑問・関心に対応する 例) 死ぬ・死す

◇自分で読む力を付けさせる手法 例) 復文

(2) 指導者として知っておきたい“訓読の奥深さ”

◇日本の言語文化の発展と中国言語文化の影響 例) 熟語の構成

◇訓読の試行錯誤の中で育まれた日本語の表現 例) 各時代の訓読

(3) 改めて気づかされる「漢文」の学びの前提

◇漢文の捉え方 例) 「5 むすび-訓読法の功罪」

◇古典を学ぶ意義を考える 「古と今は地続きで繋がっている」

現場での生かし方 ～漢文素材を扱う中で～

(1) 字義への注目

文字としての漢字に興味を持たせる。意訓等にも注目させる。
字義を意識して、現代の語句の意味を考える力を身につけさせる。

(2) 漢文の構造と漢語・熟語への注目

熟語をミニマムな漢文として、文構造と結びつけて考えさせる。
日本語に浸透する漢語の由来や、字義の組み合わせに注目させる。

(3) 現代に残る言葉への注目

訓読の言葉についてたくさん触れさせる。
慣用表現・言い回しなどの中に残る言葉にたくさん触れさせる。

(4) 日本の言語文化の発展への注目

「古代中国の文章を日本語として読む技術」を使って日本の言語文化をどのように発展させたのか、について注目させる。



ありがとうございました！